

桶狭間（大野恵造）

風は 轟々と 鳴る 田楽谷

雨は 篠 突く 桶狭間

長槍の 穂先 揃えて

どっと ばかりに 攻め 入れば

不意を 衝かれて 今川勢

四分五列の 負け 戦

義元は 遂に 討たれて 果てぬ

鉄漿 つけて 化粧

施したる その 面は

まさに 崩れ 散りにし

牡丹花の それ

解説 織田信長軍と今川義元軍の合戦。大軍を率い尾張に侵攻した今川義元に対し、尾張の織田信長が本陣を奇襲、正面から攻撃し、今川義元を討ち取った事を述べた詩。

語釈 ※桶狭間Ⅱ一五六〇年六月十二日に旧知多郡北部にかけて展開された桶狭間の戦いの故地の名としてもよく知られている。※轟々Ⅱ大きな音がとどろき響くさま。※篠Ⅱ群がって生える竹類。※田楽谷Ⅱこの地は田楽狭間もしくは田楽坪といわれ、尾張に侵攻してきた今川義元を織田信長が打ち破った桶狭間の戦いの古戦場です。※四分五列Ⅱいくつにも裂けわかれること。ばらばらにわかれて、秩序をなくすこと。※鉄漿Ⅱ歯を黒く染める習俗。お歯黒ともいう。※牡丹花Ⅱ中国が原産の牡丹の花は、日本、アジア地域で花の王様と呼ばれてきた。一輪あるだけで気品と風格を漂わせている。

通釈 風が轟々と鳴り響く田楽谷は、雨が竹類に強く当たる桶狭間であった。今川軍は大雨のため休息中で有ったが、織田軍は待機し突撃の為に長い槍を掲げ、ドットばかりに義元めがけて一直線に攻め入った。まさか、この大雨の中、織田軍が攻め込むとは思わず油断し、不意を突かれた今川の軍勢は、ばらばらとなる負け戦で、義元は遂に討たれ果てた。その義元の歯はお歯黒で染め、化粧を施した顔は崩れて果て、まるで牡丹の花が崩れたそのものであった。